

令和 6 年度第 2 回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

令和 6 年 12 月 17 日（火） 午前 10 時～11 時 30 分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

（1）委員（7 名）

内村悦子委員、高野橋加子委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、
佐藤三恵子委員、菅原元委員、白岩拓樹委員

（2）事務局（9 名）

菅野生涯学習部長、鈴木花巻図書館長、伊藤大迫図書館長、
辻村石鳥谷図書館長、菅東和図書館長、高橋花巻図書館副館長、
佐々木花巻図書館業務係長、大森石鳥谷図書館主査、新花巻図書館計画室

4 欠席者

5 名（浅沼清智委員、小田島圭委員、堀合範子委員、高橋和也委員、
中里美香委員）

5 傍聴人

1 名

6 議題等（議事録）

◎会議成立の報告（高橋花巻図書館副館長）

- ・委員 12 名のうち 7 名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第 7 条により、本会議が成立することを報告。

1 開会（高橋花巻図書館副館長）

2 あいさつ（坂本会長）

あらためまして皆さまおはようございます。すっかり冬景色になってしまいま

した。お足元の悪い中お集まりいただきありがとうございます。今日は少数精鋭ですけれどもきっちりと話し合っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

3 議題（図書館協議会規則第6条により、会長が議長となる）

（1）令和6年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・令和6年度花巻市立図書館の事業実施状況について（令和6年10月末までの実施状況）

花巻図書館から順番に各館から説明。

花巻：佐々木業務係長、大迫：伊藤館長、石鳥谷：辻村館長、
東和：菅館長

（質疑）

（○坂本会長）

ご質問等ございませんでしょうか。佐藤委員さん。

（○佐藤委員）

花巻市立図書館職員研修会とありましたけれども、具体的にどのような内容を学んだのかという報告をお願いします。

（○鈴木花巻図書館長）

4館の職員がこの会議室に集まりまして、新花巻図書館計画室の担当者から、新図書館に向けてこれから花巻の4館がどういう取り組みをしていくのかということをもみんなで共有するという研修を行いました。

新しい花巻図書館の建設という話になると、やはり花巻図書館の話という風にどうしても捉えがちになってしまいましたが、決してそうではなくて、新花巻図書館を中心として三つの分館も含めた4館が効率的に機能していくようになるために、これからどういう取り組みをしていかなければいけないのかということなど、みんなで新図書館の開館に向けて一体となって取り組みを進めましょうという内容です。

（○佐藤委員）

わかりました。

（○坂本会長）

他にございませんでしょうか。

（○白岩委員）

白岩です。企画図書展を花巻では結構たくさんやっているんですが、お子さん向けが中心なのか、私が図書館に来たときはなかなか目に入らなくて、どこ

でやってるかわからなかったです。おそらく2階、花巻図書館は狭いから大きくは取れないと思うんですけど、多分2階の片隅でやってるのかなと思います。が、狭くて苦勞してるとか、もっと広い方がいいとか、それできないこともあるのかなと思ってその辺をちょっと教えていただきたいと思います。

(○佐々木花巻図書館業務係長)

花巻図書館のテーマ図書展は、閲覧室にある棚の上に毎月新しいテーマで図書を並べて行っているところです。子どもの本については、子ども室に入っすぐの所にある丸いテーブルと図面出しができる棚を使って行っております。そのとおり、場所は狭いですが、内容によってはテーブルを利用したり、ユースコーナーも利用したりして、なるべく多くの本を面出し出来るようにしております。

(○鈴木花巻図書館長)

おっしゃるとおり、大きくスペースを取ることが難しいので、今、係長が申し上げたように、本棚の上もですし、あと、県立図書館から企画展示用に借りた本や、今も実は高校生が作成したポップの展示をしてるんですけど、できるだけ広く場所を確保したい場合は、利用者用の大きなテーブルを使って展示しています。本棚の上を使用することが多いので、気付いてもらいにくいかもしれません。申し訳ありません。

(○坂本会長)

せっかくの企画展が、狭いがために苦勞してるっていうところをしっかりと部長に聞いていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

ではすみませんが私から。

ふれあい出前講座がすごくいいなと思いました。館内だけでやらないで外に出ていくっていうのは、これからもっと開かれた図書館になるよう、どんどんやっていただければ良いと思います。生涯学習課との連携プレーも広がるだろうなと思って、とてもいいことだなと思いました。ましてやまなび学園とか図書館以外のところ、茶寮かだんとか、そういったところでやるってことはとても市民にとって身近なことになるんじゃないかなって。夜行うというのが良い発想だなと思って、これはもう続けていただければすごく嬉しいなと思った企画でした。

他にはございませんでしょうか。

なければ2つ目のその他にまいります。

(2) その他

(○坂本会長)

その他ございますか。はい、菅野生涯学習部長。

(○菅野生涯学習部長)

生涯学習部長の菅野です。

私の方からは第1回目の図書館協議会のときにも新図書館の現状についてご報告いたしましたけれども、その後の経過ということでお話ししたいと思います。前回は2つの建設候補地、総合花巻病院跡地とJR花巻駅前の土地について比較調査を行っていることと、その比較調査が終わりましたら市民の意見集約を図っていききたいというお話をしたと思います。

まず新花巻図書館建設候補地選定に係る市民の意見の集約に当たりましては、その方法について専門家から企画提案をいただいて決めていきたいということで、公募プロポーザル方式による事業者選定を実施することといたしました。プロポーザルというのは、普通の市の工事であれば、事業費の金額を入札していただいて、安いところに業者さんが決まるというものですが、プロポーザルは業者さんから企画を提案していただいて、その企画の良かったところと交渉して契約していくというもので、そういった方式を行ったところですが、公募したところ、1社応募がありまして、選定委員会で審査したのですが、合格の基準点に達しなかったことから、プロポーザル方式自体はそこで終了し、その後、随意契約ということで、花巻市は慶應義塾大学 SFC 研究所と連携しておりますので、そちらから助言を受けまして、そういった意見集約を図るための場を進めていただける方ということで、慶応大学大学院の山口先生という方をご紹介いただきまして、現在その方がメインファシリテーターとして、ワークショップ形式でやっておりますけれども、その市民会議を進めていただいているという状況になっております。市民会議についてはまたご説明いたします。

次に先ほど申し上げました比較調査の結果についてということでお渡ししておりますこの概要版を使ってご説明させていただきます。資料をめくっていただきまして、2ページ目、これまでの背景ということで基本構想から書いてございますので、説明は省略させていただきます。

次に3ページ目ですけれども、こちらも背景ということで前回お示しいたしました整備基本計画試案検討状況ということで新図書館の面積等を書いてございますのでこちらも説明は省略させていただきます。

めくっていただきまして4ページ、5ページ、これまでの検討経過が書いてございます。5ページの下段落になりますが、今回お出ししておりますこの

比較調査の結果につきまして、11月10日から14日まで旧1市3町の4地域で説明会を開催し、参加者は複数回参加された方もいらっしゃいますけれども、市議会議員の方、報道機関を含めて、花巻地区は50人、大迫は9人、東和が25人、石鳥谷は16人の延べ100人の方に参加いただきまして開催したところです。また11月17日には、この資料結果を用いて、先ほどお話いたしました意見集約の場ということで、対話を通じてお互いの意見や考え方を共有する市民会議の1回目を開催して65名の参加をいただいております。次回は12月21日に開催を予定しております。これはまた、ご説明いたします。

めくっていただきまして6ページになりますけれども、この調査の業務の目的は、新花巻図書館整備基本計画試案を精査するため、技術的な観点から必要な規模や機能等を検証するとともに建設候補地2ヶ所に係る概算事業費の算定やイメージパースを策定するもので、業務の履行期間は令和6年1月19日から10月15日まで、大日本ダイヤコンサルタント株式会社盛岡事務所さんと業務委託契約を締結して実施いたしました。

調査を実施するにあたり、業務の流れとして、まず新図書館の駐車需要推計をした上で土地利用計画図や建物の基本計画を検討し、それぞれの候補地に整備した場合の概算事業費を算出し、図書館事業費の比較を行っております。

次に7ページに進みます。駐車需要推計はどのぐらい駐車スペースが必要なのかという推計ですが、これは国交省のマニュアルや経産省の指針等を参考にして花巻市の実績に合わせて駐車台数を平日102台、休日126台と算出した上で、花巻市と人口規模が近く、新花巻図書館と同規模の図書館を整備した宮城県の大崎市や一関市など他の自治体の整備事例の平均台数が111台であることを踏まえまして、新花巻図書館に必要な駐車台数の目安を120台としたところでございます。

次に8ページをご覧ください。土地利用計画ゾーニングプランの検討を行うにあたりまして、花巻駅前につきましては、多目的広場がございますけれども、冬でも雪が積もらないように無散水消雪施設がございますが、この図書館を建てるとその改修が必要になります。建物を3階建てにすると、多目的広場に建物がかからず、広場の融雪施設の改修費が2階建ての場合より低減できるということで、2階建てと3階建ての案を検討しました。また総合花巻病院跡地につきましては、病院の跡地ということで建物撤去後、盛り土等をしてございますけれども、この盛り土をしていない北側部分を中心に建物を建設することとして、2階建て以外に1階建てについても検討し、8ページの下に書いておりますけれども、12案の配置案を検討しております。花巻駅前につきまして

は、花巻まつりにおける山車の出入りだったり、各種イベント、なはんプラザのコムズホールへの大型資材搬入等の動線を考慮した他、駐車場については、立体化する場合など、既存の駐車場の場所によって事業費が異なるため複数案を検討した上で、9 ページの下の表にございますけれども、その中の右側の案 7-2 に 2 階、平面、南駐車場を平面拡張と書いていますけれども、これを採用して市民会議で検討していただいております。また総合花巻病院跡地は土地の北側および東側には土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、また急傾斜地区域、誘発助長区域、これらを合わせて急傾斜地崩壊危険区域というそうですけれども、この他に災害危険区域というものもございます。めくっていただいて 11 ページに事業計画図がありますが、この赤、紫のところがありますけれども、こういった傾斜に伴う危険区域というのが近くにあるということがございます。県およびコンサルタントによりますと、土砂災害特別警戒区域と急傾斜地区域については、建物の建築はできないということで、また土砂災害警戒区域と誘発助長区域また災害危険区域については、公共的な土地利用を検討することは難しいとの見解をいただいております。現時点におきましては、コンサルタントの考えでは北側の平坦地に図書館の建物を建設すること、ここは、その危険な区域から除外されている部分になりますので、こちらに建物を整備する想定をしております。また実際に建てる時には、安全性を確認するためにボーリング調査を実施するというので、その結果次第によっては建物駐車場の設計内容、今想定している内容と、また事業費等も変わってくる場合がありますけれども、危険な区域に指定されている部分を除いた区域に建てる想定です。また駅前についても同様にボーリング調査を行って進めていくということにしております。

8 ページですけれども、表の右側総合花巻病院跡地については、2 階建ての平面で案 1 を採用して市民会議で検討してもらってございます。

9 ページになりますけれども、赤枠で囲っている部分、駅前の方は 2 階建て平面駐車場、病院跡地は 2 階建てという 2 案を次のページに掲載して説明してございます。その他の 10 案につきましては巻末の方に資料としてつけてございますので後からご覧いただければと思います。

その 2 案についてご説明いたします。10 ページをお開き願います。10 ページは JR 花巻駅前候補地の土地利用計画図になります。新図書館の建物を現在のスポーツ用品店の場所となはんプラザとホテルの間の多目的広場の一部を使って 2 階建てで建設する案になります。駐車場は図書館の南側、図書館本体と書いてございます所の左側に水色の部分ありますけれども、これは 38 台というこ

とで、新設したものになります。また現在の花巻駅南駐車場、なはんプラザの南側の第2駐車場ですけれども、その市道大通り1丁目プラザ線という駐車場の入口がある市道になりますけれども、この市道の一部を廃止して駐車場敷地として使用し、現状よりも60台の駐車台数を増やして、全体として98台の駐車台数を新たに確保するものです。駅前については既存の花巻駅南駐車場の稼働状況を調査確認しましたところ、収容力181台に対しまして、60台程度の使用が日常的に見られます。それに加えて、今お話ししました新たに98台を整備し、計158台が図書館利用者も含めて利用できる駐車場の駐車台数となります。なお、多目的広場の融雪設備については新たな工事が必要ですが、駐車場を平面で整備することから、事業費は比較的低廉にすることが可能になります。ちょっと細かいのですが、総事業費、左の表になりますけれども、JR東日本からの土地購入費、既存建物の解体費および線路保守管理用の入口設置費用を計上いたしまして約39億9000万円となつてございます。総事業費に書いてますけれども、建物などは駅前も病院跡地も同じ想定でいきまして、今お話しした部分が病院跡地と変わってる部分ということになります。

11 ページが総合花巻病院跡地の土地利用計画図になります。新図書館の建物については、コンサルタントは先ほどもお話しましたように、北側の平坦地に図書館の建物を建設すること。南側の新たな土盛り部分について駐車場を整備することができるとしています。急傾斜地等の法規制がない場所に、東側斜面との間に管理用通路を整備した上で、2階建てで建設し、南の部分を駐車場にするという案になります。病院跡地の南側の方、色がついてない部分、図書館本体でございます。南側、市役所側の方になりますけれども、こちらに駐車場を整備するという図面です。駐車場は建物の南側に118台新設できまして緑色になってますけれども、芝生広場も建物に隣接して整備するものですが、北側や東側斜面は急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害警戒区域となっておりまして、現状では建物を建てることができず、人の誘導も制限されます。また東側斜面は花巻城の濁堀、ちょうどあの病院跡地と花巻小学校のところが崖になってますけれども、昔の花巻城のお堀の跡になっていまして、そういった由緒ある濁堀ということで、新たに樹木を植えたりすることはできませんが、その保全のために芝生等で緑化をする案となつてございます。総事業費は法面の改修のための小段造成、図書館本体の下のところ水色で、ここが法面になるのですが、黄色い線が中に入っております。法面のところに一段つけるというものになっています。この総合花巻病院跡地では特別にこういったものを計上して、約36億3000万円の総事業費となつてございます。ここまでよろしいでしょうか。

めくっていただきまして 12 ページ、13 ページ。こちらは今の土地利用計画図をもとにして作成した JR 花巻駅前候補地の 2 階建てのイメージパース、外観ということで、北側から見た鳥瞰図と南東側のなはんプラザから見たアイレベルという図面になります。よろしいでしょうか。

14 ページ、15 ページは、こちらは総合花巻病院跡地の 2 階建てイメージパース外観で、南東側から見た鳥瞰図と、南西側駐車場から見たアイレベルのイメージパースとなります。これらにつきましては、あくまで現段階のイメージとして書いてもらったものですので、図書館の全面ガラス張りとなっていますけれども、あくまでイメージで、今後実際の設計に入ると変更されるということでご了承いただきたいと思います。

次に 16 ページから 23 ページは、現在まで検討を進めてきました新花巻図書館整備基本計画試案をもとに策定した新図書館の内観のイメージパースとなります。これは建物内観ですので、駅前に建てた場合も、病院跡地に建てられた場合も共通となっておりますけれども、これらもやはりイメージで作っていただいたものですので設計によって変更になってくるものでございます。エントランス、カフェラウンジと今の計画に入れようとしているもののイメージで書いてもらった図面となりますのでご覧いただければと思います。

24 ページをご覧ください。今回の精査で算出した事業費の内訳となります。図書館本体の建設費の財源につきましては、立地適正化計画の中で都市機能誘導区域というものを定めているのですが、都市再生整備計画に基づく都市構造再編集中支援事業として実施するということで、補助率 2 分の 1 という有利な補助金の活用を見込んでございます。補助金で賄えない部分は合併特例債というものを活用することで考えてございます。今回の比較調査において算出した候補地ごとの事業費を見ると、共通の測量および調査費や設計費、外構工事および建設工事の他、JR 花巻駅前については、駅前の多目的広場に設置しております先ほど申し上げました無散水消雪施設の改修費や JR 東日本からの土地購入費、既存建物の解体費、線路保守管理用入口設置費を含めて先ほども申し上げました 39 億 9000 万円となっております。財源については国庫補助金である先ほどの補助金ということで対象経費の上限 30 億円となっておりますので、その 2 分の 1 の 15 億円を見込んでございます。24 ページの図で言えば右側にグラフがありますけれども、国庫補助額を 39.9 億円のうち 15 億円を見てございます。市の形式的負担額 24 億 9000 万円、この市の形式的負担額のうち充当率 95%の合併特例債を活用した場合、合併特例債の返済額の 70%にあたる 16 億 5000 万円が国から交付税措置されるため、市の実質負担額は 8 億 4000 万円と

ということになります。合併特例債とは借金なんですけれども、後から返済額の70%が返ってきますよというものです。総合花巻病院跡地については、共通の測量および調査費や設計費、外構工事および建築工事の他、先ほども申し上げました北側および東側斜面保全のための法面小段造成や緑化等の費用を含めて、総額36億3000万円となります。その財源は先ほどのJR花巻駅前と同様に対象経費30億円の補助金ということで同様に2分の1、15億円の補助を見込んでございます。総事業費は36.3億円ですので、国庫補助額を除いた市の形式的負担額が21億3000万円となりますけれども、同様に合併特例債を活用して、後から交付税措置ということで70%返ってきますので、実質負担額が7億2000万円ということになります。それらを示したグラフになってございます。よろしいでしょうか。

25 ページにつきましては、参考として国の都市構造再編集集中事業補助金概要を添付してございます。

26 ページ以降は先ほどご説明しましたとおり、いろんな案を検討しましたということで、その案に沿った土地利用計画図ということで記載してございます。

次に現在実施しております、最初に申しあげました市民会議についてご説明いたします。資料の方はこちらのニューズレター表裏1枚になります。市民会議の実施に当たりまして参加者を募集したわけですが、募集人数については、参加人数が50人以上となるために必要な募集人数を過去に他の市においてなされた同様の無作為抽出による事例や、先ほど申しあげました慶應義塾大学大学院の山口先生のアドバイスによりまして、令和6年3月末現在の住民基本台帳より15歳以上の3500人を抽出して案内を郵送いたしました。また市民会議開催にあたりまして、参加者、特に高校生が参加しておりますので、意見が言いやすい環境を確保できるよう新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議傍聴要領を定めて開催しておりますけれども、傍聴者の皆様にもご理解いただいた上で意見が言いやすい環境ということで、話し合いのときも、1回目は同じ年齢の方たちをグループにして、話しやすい雰囲気を作って進めているところでございます。次に実施した内容ですけれども、市民会議は山口先生をメインファシリテーターに迎えまして、対話による話し合いとはどういうものか、対話ということで、例えば私は駅前の方がいいです、私は花巻病院跡地の方がいいですって討論するのではなくて、対話をするということはどういうものなのか、対話のルールなどを確認しながら、1回目はこの比較調査結果について説明してから候補地ごとにメリットやデメリットについて全員で話し合い

ながら、グループごとですけれども、まとめていきました。これがまず1回目で終了しております。次回第2回目は12月21日に開催することといたしまして、第1回目で出た意見を参加者で確認して、メリットやデメリットの抜け漏れがないか、対話による話し合いを進めていく予定としております。今度はメリットとデメリットを解決する方法はないかというところも進めてまいります。3回目を1月に予定してまして、その中で集約を進めていきたいと考えておりますけれども、状況によっては4回目の2月開催を予備として考えておりますけれども、そこまで行くかどうかということで市といたしましては、この間である程度方向性が集約されていけばと考えてございます。市民会議の現状ということになります。説明は以上となります。

(質疑)

(○坂本会長)

これに関してご質問等ございませんか。

(○白岩委員)

私、試案検討会議の委員だった時期もありましたが、全部傍聴して、市民説明会も見えてきて、市民会議も傍聴しました。最後の試案検討会議が5月14日にあってそれ以降は開かれてないんですけど、そのときにかなり公募型プロポーザル方式のことを説明されて、それで多数決じゃないけど、委員の方の合意をとってやってたので、てっきりそれで補正予算取ってやるもんだと思ってたんですが、急になんかSFC研究所の協定と教授が出てきてびっくりしてですね、プロポーザル方式の受付期間が7月たった10日間しかなくて、応募者が1社しかなかったっていうのは当然だと思うんですね。なぜそんなに短い期間しかしなかったのか。急に何の説明もなく、その教授の方はすごく上手だから素晴らしい方だと思うんですが、何の説明もなくやったってことは、プロポーザル方式は元々そんなにやろうと、進めようという期待してなかった。計画室は期待してなかった。早く切り上げようとしてたんじゃないかな、といううがった見方を我々市民はしてるんですけど。教授の方もSFC研究所で市とは前から繋がりがあって、なぜそっちの方から先にやらなかったのか。説明もなく急にやったとすごく疑問に思ってるんですけど。受付も10日間しかやってなくて、どういうふうにアナウンスしたのかっていうのをちょっと説明していただきたいんですけど。

(○菅野生涯学習部長)

ちょっと事務的なところもあるので、担当の方からご説明いたします。

(○新花巻図書館計画室)

今のご質問につきまして回答いたします。プロポーザル方式というのは、先ほど部長が申しましたとおり、市役所で業者を選定するときの方法の一つです。皆さんご存知のとおり、金額で選定する場合と今回のように提案で選定する場合がございます。今回、特殊な業務ということで仕様書は書けないという部分もありましたので、提案をいただくプロポーザル方式をとらせていただきました。先ほど白岩委員より10日間は短いのではないかとのご指摘がございましたが、これも市役所のルールに基づいて設定した日数でございます。その中で市が設けた基準に達しなかったため、参加された業者とは契約はできなかったという経過になります。そのようなことを踏まえ、プロポーザルをすることが目的ではなくてあくまで業者を選ぶ手段だとしてご理解いただければと思います。しかし、私どもやっぱり意見集約を対話に基づいて実施したいということで、いろいろ検討させていただき、先ほど白岩委員がおっしゃったとおり、慶應義塾大学と市で連携を結んでおり、対話によるワークショップ等の実績があるということでご相談させていただきました。契約にあたっては、役所のルールとして随意契約というルールがございます。1社を選んで契約するルールですけれども、そのルールに基づいてさせていただいておりますので、特段問題はないものかというふうに理解させていただいております。以上でございます。

(○坂本会長)

いかがでしょうか。

(○白岩委員)

役所のルールって、プロポーザル方式の場合はどうやって応募するのか、そういうファシリテーターに関係してる業者さんに声がけとか連絡するのか、どういうふうにアナウンスするのかなという疑問です。10日だと集まらないんじゃないかなと思うんですけど、どうなんだろうかね。

(○新花巻図書館計画室)

ご質問の10日間の設定にはルールに則ってアナウンスをしています。あくまで基準を作成させていただいて、市の広報だったり新規建設の工業新聞だったりということで周知させていただいております。また、どこかの業者にお話をするかっていうお話がありましたけれども、市のルールとして、それはまずありませんので、公募として広く周知をさせていただいております。周知の方法としては、インターネットや新聞などや専門誌の方に掲載させていただいて周知させていただいております。一般の方になかなか見つらい新聞等々でしたので、そういうこともあったかもしれませんが、手続きとしてはそのようにさせていただいております。

(○坂本会長)

他にはございませんか。街の声は、どうでもいいから早く作ってほしいなという声も聞こえてきます。

(○白岩委員)

すいません、白岩です。市民会議についてですね、以前、計画室にもちょっとお話したことがあるんですけど。傍聴に行ったときに傍聴席から出てグループディスカッションを聞きたいという要望が出たんですけど、それは駄目だと言われまして、知ってる顔がいると話しづらいからという話でした。雰囲気としてはファシリテーターの教授の方が本当に進行が上手で和気あいあいと話してるようなので、我々市民としてはそばに行ってどういう話をしてるかとか、私も市民グループに参加してるんですけど、ファシリテーターのやり方も勉強したいんですよね。でもそれはルールで駄目だって言われました。あとは、新図書館に関する市民グループが花巻には4つぐらいあるんですけど、4つのグループのリーフレットとかニュースレターとかをどっかにブースを作って置かしていただいて、自由に勉強したいという方に手に取ってとってもらうようにしてほしいという要望をしたんですけど、それもルールで駄目だってことで、ちょっと閉ざされたような感じがするんで、もっとオープンにしてほしい。何やってるかわかんなくて、最後の発表のときだけ何とかわかるんですけど、もっとオープンに、どういう話が、どういうアイデアが出たとか、どういう話をしてるかもっとオープンにわかるようにしてほしいなと。市民の方ももっと皆で一緒に考えると、情報共有するような方向にしてほしいんですけど、あまり役所のルールで決めたとかって突っぱねないでそういうふうにしてほしいんですけど、どうでしょうか。

(○菅野生涯学習部長)

閉ざされたとおっしゃいましたけれども、話し合った結果は最後に皆さんで共有するわけですので、やっていることは傍聴している方でもわかっていただけるかと思います。最初のところでも説明しましたけれども、やはり高校生も含んで話をしているので、傍聴に来てくださる方には、こちらの方がいいというようなリーフレットを置きたいとおっしゃるような方もいらっしゃるって、それは悪いわけではないんですが、やはりその方たちにじっと見られてお話するのはしづらいと思います。あくまでどっちがいいとか、どっち派ということではなくて、2つの候補地を公平な目で見えていただいて、対話をするという形で進めてまいりたいと思います。ファシリテーターを勉強したいという気持ちもわかりますし、グループワークでお話しているときはちょっと内容はわからな

いかと思いますけれども、そのところをご理解いただきたいと思いますので
よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

対話の心得ってというのがいいですね。皆さんで話をしていった何か生まれるってというのがいいですね。

はい、高野橋委員。

(○高野橋委員)

プロポーザルの件で、この1社っていうのは他で図書館の建築をされてた会社なんですか。経験があるところだったんでしょうか。

(○新花巻図書館計画室)

お答えします。そもそも比較調査をしたのは、市民説明会のときに両方の事業費の比較や図面がないとわからないっていうことが発端でしたので、その事業費の試算ができる建設コンサルや図書館のコンサルが想定されましたので、そのような業者に周知し、実際に応募があったのは建設のコンサルです。

(○高野橋委員)

先ほどの白岩委員のお話ですけれども、何年か前のワークショップでも、ものすごくいろんな意見を聞いて本当に盛り上がりまして、市民の方ややっぱりいろんな方に参加していただきたいと思いますので、どんどん違う方に広がってほしいかなと思います。

(○坂本会長)

ありがとうございます。2回3回と続けることによって何かいい案が出て、早くまとまって欲しいです。

他にはございませんか。

はい、熊谷委員さん

(○熊谷委員)

新花巻図書館を建設しようとしたときの予算と今とではだいぶ違ってるんじゃないかなと。これだけ物価が高騰しちゃって、これからまだ伸びるともって予算を費やさなければならないのかなというちょっと心配がございます。やはり、皆待っておりますので、できるだけいいものを作りたいという気持ちでみんな意見を言ったり、集まったり、本当に市役所の方たちも頑張ってくださいるのはよくわかるんですけれども、もうそろそろという気持ちがとてもあるし、これ以上ちょっと高くなるとまた大変なんじゃないかなと。ちょっとそれだけは思っておりました。

(○菅野生涯学習部長)

おっしゃるとおり早くというのはありますし、市としても補助金がいつまでも使えるというわけじゃありませんし、先ほどの合併特例債というものも、いつまでも使えるというわけではございません。それらの有利な補助金等がないと市の負担が大きくなるということになりますので、それらが使えるうちにといいことでやっていきたいと思います。また将来、人口減少ということ、減少にならないように市としても頑張っておりますけれども、そのときはやはり運営費の方を人口に合わせた状況に収縮していくというようなことも想定されるのかなと考えてございます。

(○坂本会長)

期限は決まってるってことですよね。でもそれより前にできてほしいですね。よろしくお願いいたします。

他にはございませんか。

はい、佐藤委員。

(○佐藤委員)

先日、花巻のアルテマルカンの本屋さんに行って児童書コーナーに行ったときに、岩波少年文庫が1冊も私は探せなかったんで、お店の人にどこにありますかって聞いたら、取り扱ってないと。注文が入ったときだけそれを受けるんだっていう話だったんです。私は岩波少年文庫を小中学生、高校生にはぜひ読んでほしいと思ってるんですけども、本屋さんではそういう本に出会うチャンスが花巻はないってことがはっきりしましてですね、先ほど児童室に行って図書館にある岩波少年文庫のシリーズを見てたんですけども、やっぱりそうすると、図書館の役割ってというのが本当に大きい。売れる本だけが本屋さんにある。売れないけれどもいい本だっていう本を本当に大人がよくわかって、図書館の方がよくわかって、それを子どもに手渡していくっていう図書館の重要な使命ってというのがあって本当に思いましたので、良い本、名作を子どもそばにっていうことをやっぱり指針というか理念を持ってやってほしいなと思いました。お願いします。

(○新花巻図書館計画室)

図書館計画室の方でいろいろ情報を集めております。今度、文部科学省の方で図書館のあり方、新しいあり方の検討会が開催されることが決定になっております。その中では町の書店がないとか、学校図書館との連携を図書館はどうするかっていうのが新しい議題として来年度に向けて検討されておりますが、検討後公表される新たな指針を新しい図書館の方に反映させていくことも考えていかなければと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

す。

(○坂本会長)

はい、心強いお話が出ましてありがとうございます。

やはり売れる本だけでは駄目なので、大事なことをご提案いただきました。

他にございませんでしょうか。

(○白岩委員)

質問なんですが、今回の市民会議は若い方とかいろんな方が参加してすごく素晴らしい会議だと思うんですが、新図書館計画室以外の花巻の図書館の関係者は何か参加とか何か関わってるとか、傍聴とか、見てるんでしょうか。将来の図書館に関しての話は今の図書館と繋がると思うんですけど、どうなんですか関係者の方はいらっしゃってるんでしょうか。

(○新花巻図書館計画室)

ご意見ありがとうございます。図書館の職員の皆さんに現状やどういう形でお手伝いしてほしいとか、一緒に考えましょうということで、図書館職員の研修会に参加させていただいて、情報の共有はさせていただいております。また、密に情報の連絡を取り合って、今、現図書館の課題がどうなのかっていう部分も私達も把握しながら進めさせていただいておりますので、先ほど白岩委員おっしゃったとおり現図書館があつての新図書館ですので、その部分は肝に銘じながら作業を進めていきたいと思います。ご理解のほどよろしくお願いします。

(○白岩委員)

情報共有を密によろしく願います。

(○坂本会長)

他にはございませんか。それでは議題の方のその後は終わらせていただいて、4番のその他に入りたいと思います。

4 その他

(○坂本会長)

どなたかございませんか。

(○高橋花巻図書館副館長)

花巻図書館ですが、建築基準法に適合しない箇所があるという指摘を受けまして改修工事をすすめておりました。指摘を受けた発端は、建物東側にピロティがあるんですが、ここにシャッターを付けて閉じていたために、これは部屋になるので建築基準法上問題があるという話があり、他にも問題がないかを含

めて調べてもらってわかったものです。移動図書館車を入れていた車庫は許可を取らずに増築していましたので解体しました。また、屋根裏部屋を倉庫として使用していましたが、これも部屋としては使用できないものでしたので、出入りが出来ないように閉じました。他にも、この会議室や応接室、職員の休憩室は消防法上の排煙基準を満たしていなかったため、天井や壁の貼替えを行いました。工事期間中は、車庫の一部を解体するための斫り工事等での騒音や会議室が一定期間使用できなくなるということはありましたが、貼り紙等で利用者の方にご理解をいただきながら休館はせずに工事を進めてまいりました。一部変更契約がありまして、車庫の部分だけ完了検査がまだ終わっていませんが、それ以外は終了して利用を再開しております。

(○坂本会長)

いろいろ大変でしたね。

ここは駐車場が北側なので、車から降りて凍ってる場合もあります。ですから、そのところ気をつけていただきたいなと融雪剤とか何かご配慮いただきたいなと思いました。それから、トイレを拝借したらば、お花が飾ってあっていろいろ工夫してらっしゃるんだなと思いました。スライドのドアのロックが動かないとか、荷物をかけるフックが高すぎるとか、そういった使いにくいところがあったんです。ですからそこをもうちょっと工夫していただければ、気持ちよく使えるのかなと思った次第でした。

(○鈴木花巻図書館長)

ご意見ありがとうございます。早速確認をしたいと思います。

(○坂本会長)

他にございませんか。

(○鈴木花巻図書館長)

10月2日に県立図書館が主催する県内の図書館職員と図書館協議会委員の合同研修会に参加してまいりました。佐藤委員と白岩委員も参加されまして、大変有意義な研修でしたので報告させていただきます。

基調講演は田口幹人さんという読書未来研究所、それからNPO法人読書の時間を主催されている方です。この方は、元々、盛岡のさわや書店でカリスマ店員ということで大変話題になった方で、花巻図書館でも以前にお話をさせていただいたことがあると聞いております。出版業界の現状等いろんなことに関してしっかりとしたデータに基づいた説明で、大変に興味深い内容でした。町の書店が減っているからこそ子供たちにとっては学校図書館が大事だし、学校図書館を補うためには公共の図書館も学校図書館との連携等に取り組む必要があ

るというお話がありました。これから新図書館に向けてもですし、今の図書館の中でもできることはやっていきたいと思う内容の研修でした。それ以外に、八戸市営の書店である八戸ブックセンターの方のお話や長野県の塩尻図書館の館長さんの事例紹介がございまして大変有意義な時間でした。簡単ですが以上です。

(○坂本会長)

他にはございませんか。なければ事務局にお返しします。

(○高橋花巻図書館副館長)

ありがとうございました。

先ほどのトイレの件ですとか駐車場の積雪の件ですとか、私たちも気をつけてはいるつもりですがどうしても行き届かないところがありますので、ぜひ皆さんからご指摘いただければと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

5 閉会（高橋花巻図書館副館長）